



すみだだより

令和8年1月30日

『特別支援学校のキャリア教育とは』

副校長 榎本 学

10月に実施した学校評価では、保護者の皆様から多くの御意見をいただき、学校運営の改善に役立てています。御協力ありがとうございました。その中で「教職員は児童生徒の実態に合わせたキャリア教育を行っていますか」という質問項目がありました。しかし、保護者の方にとっては「キャリア教育って何だろう?」「行事でキャリア週間であるけれど、具体的にはよくわからない」という声も多いようです。そこで今回は特別支援学校におけるキャリア教育の目的と取組みについて御紹介します。



■キャリア教育とは

キャリア教育とは「お子さんが卒業後に自分らしく生活できる力を育てる教育」です。働くことだけでなく学習や生活の中で、働くことの意味や役割を理解し、社会参加への意欲を高めることが重要です。

■学部ごとの取組み

キャリア教育は、学校生活全体をとおして次のような目標で進めています。

小学部（基礎形成期）

- ・ねらい：生活習慣・人間関係・働くことへの興味を育む。
- ・内容：遊びや生活単元学習等を通じて役割意識・意思表示・基本的生活技能を習得。
- ・方法：体験的活動（買い物ごっこ、係活動）で働いたのしさを実感。

中学部（基礎の統合期）

- ・ねらい：自己理解を深め、職業観・勤労観を育成。
- ・内容：作業学習や校外学習等で職業体験の初歩を経験。協働・責任感を強化。
- ・方法：意思決定の場を設定し、進路を考えるきっかけを提供。

高等部（実践・移行期）

- ・ねらい：社会生活に必要な技能・態度を確立し、卒業後の自立の準備。
- ・内容：企業実習・専門教科で実践的技能を習得。自己決定力を高める。
- ・方法：長期実習、地域・企業連携、個別移行支援計画を活用。

■キャリア教育が「見えにくい」理由

キャリア教育は、校内での学習を積み重ね、校外でその力が通用するかを確認し、必要に応じて再度練習するという繰り返しのプロセスです。このため、行事のように目に見える形ではなく、日々の学習に組み込まれているため「やっているのかわからない」という印象になりがちです。

■学校と家庭の協力が大切です

キャリア教育の成果を高めるためには、学校と家庭の連携が不可欠です。家庭での生活習慣や社会性の育成は学校での学びと深く結びついています。例えば、挨拶や身の回りの整理整頓、時間を守る習慣など、日常生活での積み重ねが将来の自立につながります。学校と家庭が情報を共有し、同じ目標に向かって取り組むことで、子供たちの成長はより確かなものとなります。今後も家庭、地域や企業と連携しながら、子供たちが「自分らしい生き方」を実現できるよう、キャリア教育を充実させてまいります。

持久走記録会（中学部）

1月16日（金）にフクシ・エンタープライズ墨田フィールドにて、中学部の持久走記録会を行いました。当日は晴天のもと、生徒たちは500m・1000m・1500mの種目に挑み、それぞれが自分のペースで走り切りました。友達同士で励まし合う姿や集中して取り組む様子が見られ、目標に向かって努力することの大切さを学ぶ良い機会となりました。持久走記録会に向けての健康観察や防寒対策等、御理解、御協力ありがとうございました。

（中学部：渡辺嵐士）



研究部①授業研修会（小学部 国語研究会）

本校では、今年度から全校研究テーマを「学習指導要領を踏まえた授業改善～小・中・高等部の学びの連続性を考える～」とし、12年間の学習の系統性を踏まえた授業改善のため、研究を進めてまいりました。小学部国語科では、学習指導要領を基にした「指導内容表」を参考に、文部科学省著作教科書（星本）を活用した研究授業「演じてみよう！～三びきの子ぶた～」を実践しました。実際に星本を手元に置き、ページをめくりながら台詞を発声して劇遊びを行っています。星本は学習指導要領で示された目標に合わせ、分かりやすい学習内容が多く掲載されていますが、そのまま使用することは児童・生徒の実態に合わない場面もありました。星本の内容を参考にしつつ、児童・生徒に合わせた教材研究を行っています。（研究部：津田朋美）



研究部②授業研修会（小学部 算数研究会）

小学部算数研究会では、学習指導要領の図形領域に焦点を当て、研究を進めました。学習内容一覧を小学部～高等部まで見渡すことで、学習の系統性を確認し、教科書や年間指導計画とのつながりについても検討しました。また、教員間で単元や教材の共有を行い、「授業実践例内容表」を作成しました。同じ段階・領域の中でも授業にバリエーションをもたせることや、段階が上がった先での授業についても具体的なイメージをもつことの必要性を確認しました。研究授業では1段階の内容に焦点を当て、「みんなのまちをつくろう」を実践しました。各実践を通して、学習指導要領、各領域の段階の理解が、的確な授業実践につながっていくことを改めて実感しました。

（研究部：小室千秋）

